

家庭菜園相談室

今月の
テーマ

鉢植えやプランターでも簡単に育てられる！ ～ブルーベリー～

ブルーベリーは、育てやすく、場所も取らず、手軽に楽しめる小果樹です。多種多様な品種の苗木が入手しやすくなってきており、生食のまま食べたり、ジャムやお菓子に使用したりと大活躍です。



作型目安

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
植え付け期間	—		●								●	—
植え付け後の管理	★	★	●—●		●—●			●—●				
			▲	▲		■	■	■	■			

● 植え付け ★ 剪定 ● 追肥 ▲ 開花 ■ 収穫

栽培のポイント

品 種

栽培されるブルーベリーの系統を大別すると、「ハイブッシュ系」と「ラビットアイ系」の2種類に分かれます。また、近年ではさらに「ハイブッシュ系」を「ノーザン・ハイブッシュ」と「サザン・ハイブッシュ」と区別します。ハイブッシュ系の品種は、耐寒性があり、本来は暑さに弱いとされています。一方ラビットアイ系の品種は耐暑性があり、寒さに弱い傾向があります。初心者向けでは、耐暑性があり比較的土壌適応性が高いラビットアイ系がおすすめです。また、受粉させるためには、必ず2品種以上の木が必要です。「ブルーベリーの実がならないです」という相談が多いですが、「1本だけ植えた」という場合と「同じ品種を2本植えた」という場合がほとんどです。ラビットアイを植え付けるなら、ラビットアイ系統の中から別品種を2本以上選択しましょう。

土づくり

用土は、水はけと水持ちのバランスが良い酸性用土を使用します。pHが4.5程度になるよう酸度未調整ピートモスを多めに使用するとよく育ちます。ピートモスは、水となじみにくいので、事前に水とよく混ぜておくといでしょう。用土は専用資材が多く出回っているので、それを使うのも良いかと思います。

水やり

ブルーベリーは、乾燥に弱く、たくさん吸水する植物です。鉢植えなら表面の土が乾いたらたっぷりと水やりをします。特に近年の夏場の水切れには気を付けましょう。

肥 料

ブルーベリーの成長に必要な成分は、窒素・リン酸・カリの3つです。それぞれの成分を多く含んだ緩効性肥料(有機8-8-8)を3月に元肥として1株当たり100%程度施して下さい。追肥は5月、8月それぞれ1株当たり30~50%程度施します。果実を収穫後も肥料を与えると良いでしょう。

剪 定

大きくなったブルーベリーは、剪定が必要です。剪定は、1~2月が適期です。「木を大きくするため」「たくさん果実を实らせるため」と、成長段階によって目的が違います。何年物の苗を購入するかによりますが、植えてから1~3年目は、花芽がついている先を切って剪定し、木の成長を促します。3年目以降は、内向き・伸びすぎた枝・根元から出ている枝を中心に切り落とします。

収 穫

ブルーベリーは、6~9月上旬までが収穫時期です。1粒ごとに果実全体が青紫色に変化してから4~7日後が目安です。軽くひねりながら摘み取りましょう。長期的に収穫を楽しむためには2つの系統(ハイブッシュ・ラビットアイ)を併せて植えましょう。

病 害 虫

比較的強いほうですが、ヒヨドリなどの鳥害が多いところでは防鳥ネットが必要になります。

その他、家庭菜園に関する相談は、JAの支店または営農経済センターまでご連絡ください。